

匠を感じる住まい



平成27年4月吉日
一般社団法人
三重県古民家再生協会発行

「四日市市の古民家再生、竣工間近！」

花満つる季節となりましたね。こんにちは、堤です。

年明けより進行しておりました、K様邸の古民家リバージョンが、4月末に竣工します。「この古民家、なおせようですか？建て替えの方が良いと言われてしまいそうなのですが、建物に愛着を感じているので…」とK様。築約65年だという、古民家の状態を

診させていただくと、古びてはいるものの、当時の大工が建取向を凝らしたであろう、曲がった梁の納めや、品の良い建具が目を引きました。約20坪という小ぶりな木造で、建って豪華さはないけれど、造り手の思いが伝わってくる建物でした。



before ↓



after ☆

そうして始まった古民家再生。

残すところを痛めないよう解体も大工。板張りの外壁も、戸袋も、内装もすべてが大工にお任せ仕事で進められ、仕上げは、漆喰・珪藻土塗りの左官工事。

最新のお風呂やキッチン、断熱サッシも入り、水道も電気も新たに引きなおしました。

改めて、すべて「手仕事」なのだ実感した住まいづくりでした。職人の方々、そしてこの古民家を残す決断をなされたK様ご家族に感謝です。そして今回、お施主様のご厚意により、4/23(土)・24(日)に完成見学会をさせていただくこととなりました。

この機会に是非ご覧下さい。
(詳細は別紙にて)



玄関は広く工間を残し、ケヤキの一枚板の式台で家族をむかえます。



上がり木匠は2本を継いで全長約5.6m。大工さん渾身の継ぎ手は「金輪継ぎ」。中央の柱は黒壇。用強美の形です。

「アレックス・カーのニッポン景観論《場所に敬意を払おう》」

前号、「アレックス・カーとは?!」にフックパート2をお送りいたします。

「この風景、みなさんも見たことがあるでしょう。」

日本のどこにもある風景です。」

とアレックス氏は写真をスライドショーで提示しながら日本の景観の問題点を軽快なトークで指摘します。道路のはたにかかけられた、「街をきれいにしましょう」のローガン看板。観光地に行くと、ろっも4つも視界に飛びこんでくる、「禁煙」「立ち入り禁止」「ごみを捨てないで」という原色の注意看板の数々。

確かに、日本のどこでもみられる光景です。

それらへの考え方として、印象的だったアレックス氏の言葉は、「その場所に敬意が払われていることが訪れる人々に伝われば、だれもゴミなんて捨てない。入っちゃいけない場所も自ずとわかる。」というものでした。つまり、ただ看板を自立するように立てるより、「この場所を大切にしている」という所有者の気持ちや、場所への手入れなどを通じて訪れる人に伝わることで、みやみやたらな看板を減らし、その場所の景観を壊さずに済むのでは。ということでした。これは、アレックス氏の講演のほんの一部ですが、このお話を聞いてから、いままで見慣れて気にも留めていなかった看板が、行く先々で気になり始めます。

「これ、本当に必要な？」と。 <終>



(c) 2016 一般社団法人全国古民家再生協会
2月に再生協会の全国大会にて、アレックス・カー氏の講演を聞いてきました。

「次回の古民家鑑定士試験 & 講習日程」

4月27日(水)13:00~四日市文化会館

5月18日(水)13:00~サンワーク津

お待ちしております!!

一般社団法人
三重県古民家再生協会

〒510-8016

三重県四日市市

富州原町10-6

TEL 059-366-3833

FAX 059-361-1717

☑ info@tap-s.com

